サッポログループ

CSRレポート 2015

サッポロホールディングス株式会社

経営理念

潤いを創造し
豊かさに貢献する

目 次

トップメッセージ …… 2

サッポログループのプロフィール …… 3

サッポログループのCSR －6つのCSR重要課題－ …… 7

1. 食と空間の品質におけるCSR …… 9
2. 取引におけるCSR …… 12
3. 地球環境の保全におけるCSR …… 13
4. 社会との共生におけるCSR …… 17
5. 人財と職場環境におけるCSR …… 21
6. 健全な企業経営のためのCSR …… 22

世界で「食のメーカー」として存在感を示す

～世界のお客様が求める、明るく、楽しく、豊かな時間と場を提供し続ける～

サッポログループは、1876年に北海道に創設された開拓使麦酒醸造所を前身とし、138年の歴史を有する酒類事業をはじめ、今では食品・飲料事業、外食事業、不動産事業を展開する企業グループとなりました。海外においても北米と東南アジアを中心にグローバルに事業展開を推進しています。

今後も「潤いを創造し 豊かさに貢献する」を経営理念に掲げ、持続的な成長の実現に向け、さらに体質を強化するとともに成長投資を加速させ、特徴のある「食のメーカー」として国内外で存在感を示していきます。

本年2月に策定した「サッポログループ経営計画2015年－2016年」では、安定的に利益を生み出す国内酒類事業と不動産事業を柱として、将来の成長に向けた国際事業と食品・飲料事業への投資、将来の成長の芽となる研究開発投資を推進します。

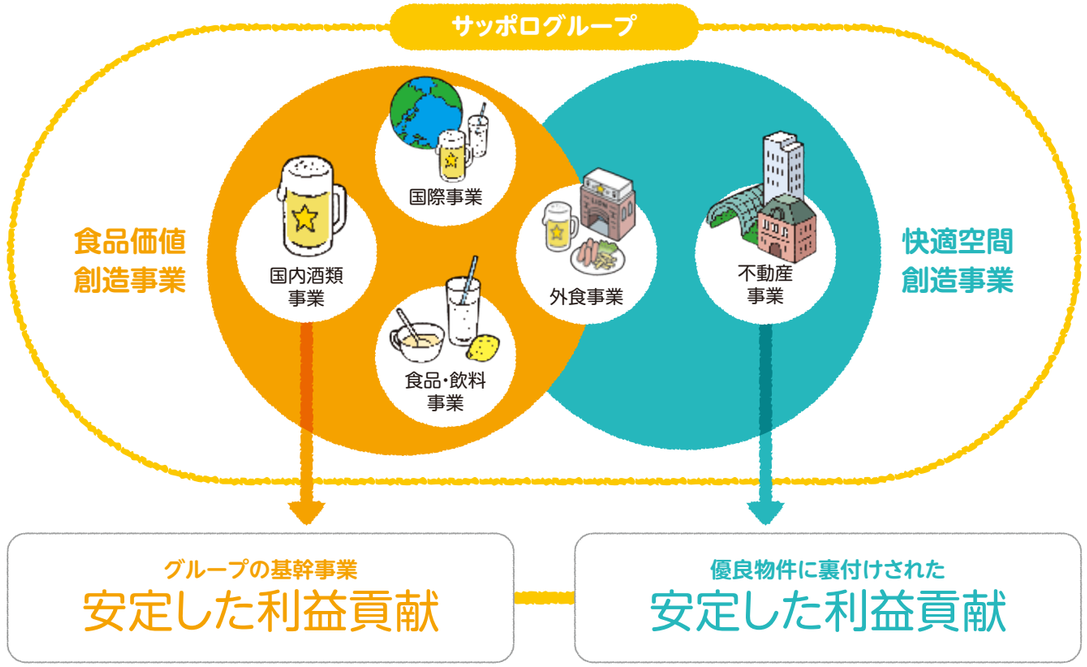
サッポログループでは戦略の確実な実行と成果の実現を図るとともに、グループの持続的発展を支える重要な戦略の一つとして、6つのCSR重要課題を定めCSR経営を推進しています。世界のお客様が求める、明るく、楽しく、豊かな時間と場を提供し続ける「食のメーカー」をめざし、さまざまなステークホルダーの皆様とともに、持続可能な社会づくりに貢献していきます。

サッポロホールディングス株式会社
代表取締役社長 兼 グループCEO
上條 努

サッポログループは「食品価値創造事業」と「快適空間創造事業」の2つの事業ドメインにおいて、グループの資産・強みを活かした事業を展開しています。

サッポログループの事業ドメイン

サッポログループは、安定的に利益を生み出す国内酒類事業と不動産事業を柱とし、将来の成長に向けた国際事業、食品・飲料事業へ注力していきます。また、将来の成長の芽となる研究開発を積極的に進めます。

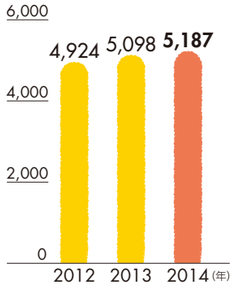


サッポログループの概要

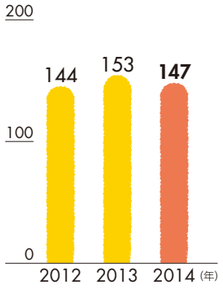
サッポロホールディングス株式会社

設立	1949(昭和24)年9月1日
創業	1876(明治9)年
本社	東京都渋谷区恵比寿四丁目20番1号
代表者	代表取締役社長 兼 グループCEO 上條 努
事業概要	純粋持株会社(グループの経営戦略の策定、管理)
資本金	53,886百万円
発行済株式数	393,971千株

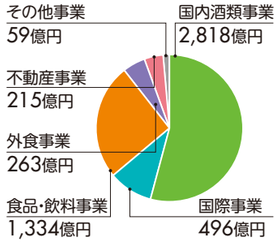
連結売上高
(億円)



連結営業利益
(億円)



セグメント別売上高構成比
(売上高:億円未満切捨)



※上記グラフの数値は2014年12月期のデータです。

サッポログループの事業

国内酒類事業

サッポロビール株式会社

「黒ラベル」「エビス」「麦とホップ」を基軸ブランドとし、機能系商品「極ZERO」や「ホワイトベルグ」などの高付加価値商品で新たな市場を創出。ワイン・スピリッツ事業でも4年連続で売り上げを伸ばしています。

国際事業

サッポロインターナショナル株式会社

北米とベトナムを起点とした東南アジアを中心に事業展開し、世界各地で「サッポロ」ブランドのさらなる浸透を進めていきます。
米国飲料事業では、新たに飲料メーカーのカントリーピュアフーズを傘下に加え、事業の拡大を図ります。

食品・飲料事業

ポッカサッポロ フード&ビバレッジ株式会社

レモン・スープを中心としたコアブランドの強化とともに、技術や素材を活かした新しい価値提案を加速します。また、好調な外食事業は「カフェ・ド・クリエ」の展開を推進します。海外ではシンガポール、マレーシア国内でブランド確立と、ミャンマーなど周辺国への展開を図ります。

外食事業

株式会社サッポロライオン

国内外でビヤホール事業を拡大することで、世界に日本のビヤホール文化を発信していきます。国内では「銀座ライオン」「エビスバー」の新規出店ほか、新業態開発にも注力し、海外では好調なシンガポールのビヤホールを中心に積極的に拡大していきます。

不動産事業

サッポロ不動産開発株式会社

グループブランド強化に貢献するため、グループ保有の資産価値向上をさらに図っていきます。「恵比寿ガーデンプレイス」のバリューアップ推進や「恵比寿ファーストスクエア」の竣工、銀座5丁目再開発計画などで、グループの安定的な収益基盤を強化していきます。

サッポログループの主な海外子会社

ベトナム

SAPPORO VIETNAM LTD.
(サッポロベトナム／ロンアン省)
事業内容:ビールの製造・販売

マレーシア

POKKA (MALAYSIA) SDN. BHD.
(ポッカ・マレーシア／ジョホール州)
事業内容:飲料水の製造

POKKA ACE (M) SDN. BHD.
(ポッカエース・マレーシア／スランゴール州)
事業内容:飲料水の製造

シンガポール

POKKA CORPORATION (SINGAPORE) PTE. LTD.
(ポッカコーポレーション・シンガポール)
事業内容:飲料水の製造

POKKA INTERNATIONAL PTE.LTD.
(ポッカインターナショナル)
事業内容:飲料水・食品の販売

SAPPORO LION (SINGAPORE) PTE. LTD.
(サッポロライオン・シンガポール)
事業内容:食品の製造、飲食店の経営

カナダ

SLEEMAN BREWERIES LTD.
(スリーマン／オンタリオ州)
事業内容:ビールの製造・販売

アメリカ

COUNTRY PURE FOODS, INC.
(カントリーピュアフーズ／オハイオ州)
事業内容:果汁飲料の製造・販売
※ 2015年2月グループに加入

アメリカ

SAPPORO U.S.A., INC.
(サッポロUSA／ニューヨーク州)
事業内容:ビールの販売

アメリカ

SILVER SPRINGS CITRUS, INC.
(シルバー スプリングス シトラス／フロリダ州)
事業内容:チルド飲料の製造・販売

サッポログループのあゆみ

1876
「開拓使麦酒醸造所」完成

北海道開拓使のビール工場として「開拓使麦酒醸造所」が札幌に誕生。その翌年、冷製「札幌ビール」を発売しました。

1878年使用のラベル

1890
「恵比寿ビール」発売

現在の東京・目黒区三田に1889年「日本麦酒醸造会社」の醸造場が完成。その翌年に「恵比寿ビール」を発売しました。

発売当時のラベル

1899
日本初のビヤホール「恵比寿ビヤホール」東京銀座に誕生

「恵比寿ビール」の宣伝のため、現在の東京・銀座8丁目にビヤホールを開業。現在の「銀座ライオン」のルーツです。

1905年頃の恵比寿ビヤホール

1994
新たな複合商業施設「恵比寿ガーデンプレイス」誕生

1993年、札幌に「サッポロファクトリー」を開業。その翌年に「恵比寿ガーデンプレイス」も開業し、ビール事業の枠を超えた複合経営をスタートしました。

恵比寿ガーデンプレイス

2003
純粋持株会社「サッポロホールディングス(株)」誕生

「酒類」「飲料」「外食」「不動産」の各事業会社を傘下とする新しいグループ体制に移行しました。

SAPPORO
サッポロホールディングス株式会社

2006
SLEEMAN BREWERIES LTD.「スリーマン」がグループに加入

カナダのビールメーカー「スリーマン」をグループに迎え、1984年に設立したサッポロUSAと合わせて、北米市場での地位を強化しました。

2011
日本のビールメーカー初の自社ビール工場をベトナムに竣工

ビールの需要の伸長が著しいベトナム市場をねらい工場進出。同国を起点に東南アジアへ事業拡大を図っています。

サッポロベトナム工場

2013
ポッカサッポロフード&ビバレッジが事業開始

ポッカコーポレーションとサッポロ飲料が経営統合し、サッポログループの食品・飲料事業を担う新会社として事業を開始しました。

おいしい「!」がある
pokka sapporo

6つのCSR重要課題

サッポログループでは「CSR経営」を
「グループの持続的な発展を支える重要な戦略」の一つと位置づけ、
企業としての発展をめざすとともに、持続可能な社会づくりに貢献していくために、
グループとして6つのCSR重要課題を定め、取り組んでいます。

課題 1
食と空間の品質におけるCSR
お客様の求める商品・サービスを提供するために。

課題 2
取引におけるCSR
お取引先と公平で公正な取引を行い、より良い関係を構築するために。

課題 3
地球環境の保全におけるCSR
豊かな地球を幾世代にもわたり受け継いでいくために。

課題 4
社会との共生におけるCSR
事業を営む地域の活性化に貢献するために。
酒類を扱う企業グループとしての責任を果たすために。

課題 5
人財と職場環境におけるCSR
グループの全従業員が、一人ひとりの強みを発揮し、
多様性を活かせる組織にするために。

課題 6
健全な企業経営のためのCSR
コーポレートガバナンスを強化し、健全な企業経営を推進するために。

食と空間の品質におけるCSR

世界中のお客様が求める商品・サービスを提供し続けるためには、安全・安心な品質を確保するとともに、さらなる品質向上に取り組む姿勢が不可欠です。サッポログループは、食のメーカーとして138年にわたって蓄積した技術資産を活用して、より良い品質を追求し続けます。

Action 1 技術資産を活かした商品・サービスづくり

サッポログループは、既存の技術資産と新たな分野の技術を融合させ、さらに研究を加速させるために、グループ横断的な研究開発体制「サッポロイノベーションラボ」を新設しました。

“ビールづくり”で培った発酵技術から幅を広げ発展してきた「食品加工研究」と、創業以来の原料へのこだわりを受け継ぐ「原料素材研究」は、いずれも138年にわたって蓄積された技術資産が原点。お客様に新しい価値をお届けし続けるべく、新しい体制でさらに技術力を磨きあげています。

また、新たな取り組みとして、「味覚研究」や「感性科学」などの分野にも注力し、既存の技術資産との融合によって新たな可能性を広げていきます。

既存の技術資産

食品加工研究	原料素材研究
●商品開発 ●用途拡大	●大麦やホップの育種開発 ●レモンの応用研究 ●新しい素材開発

× 融合

新たな技術

味覚研究・感性科学
●お客様の感覚を科学的に解析 ●お客様の潜在ニーズ抽出

グループ横断研究開発体制

Case 1 お客様を知る 「アイトラッキング」の活用

味覚や視覚など、お客様の商品選択時の五感の動きを把握・解析する研究を進めています。商品を見る際の視線の動きを解析する「アイトラッキング」の手法を活かした、魅力的なパッケージデザインの開発などを実現しています。

アイトラッキングで「キレートレモンサワー」のパッケージを開発

Case 2 “おいしさ”を探す 「グリーンシャワー」の開発

ポッカサッポロが2014年に発売した無糖炭酸水「グリーンシャワー」は、サッポロビールが品種登録したホップ「フラノビューティ」の香りをもとに開発されたフレーバーを活用するなど、グループのシナジーを活かして開発した商品です。

フレーバー開発のためのホップの香り成分収集作業

Case 3 “おいしさ”を探す 「LOXレス大麦」の研究

ビールの香味を劣化させる酵素を含まない「LOXレス大麦」を育種開発。カナダに続き、北海道やオーストラリアでも商業化に向けた試験栽培を現地で行っています。

(上)オーストラリアのLOXレス大麦「SouthernStar」の畑
(左)LOXレス大麦を原料とした麦芽を使用している「黒ラベル」

Case 4 “おいしさ”をつくる レモン製品の品質を向上させる業界初の殺菌技術

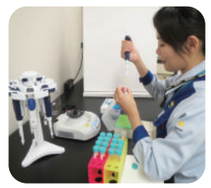
新設のポッカサッポロ名古屋工場第三工場にある「ポッカレモン100」の生産ラインは、業界初となる殺菌技術「交流高電界殺菌法※」を導入し、従来の加熱殺菌法よりも品質の良い製品を製造しています。

※ 交流高電界殺菌法:食品に電気を流すことで迅速かつ効率的に殺菌できる技術。

「ポッカレモン100」生産ライン

Case 5 “おいしさ”を保証する 「プリン体0.00」を実証

世界で初めて「プリン体ゼロ」「糖質ゼロ」を同時に実現した「極ZERO」は、100mlあたりプリン体0.00mgであることを保証する技術により、商品化されました。



研究所での分析作業

食と空間の品質におけるCSR

Action 2 安全・安心な品質の追求

サッポログループは、「品質保証体系」を定め、安全な品質の確保に取り組んでいます。国内のみならず、海外においても各地域の厳しい品質基準に対応し、グループ全体で安全で安心な商品づくりを心がけています。

Case 1 東南アジアでハラル認証を取得

ポッカサッポロの海外飲料事業では、「ポッカコーポレーション・シンガポール」「ポッカエース・マレーシア」の工場に続き、「ポッカ・マレーシア」の新設工場においても、ハラル認証※を取得しました。

※ ハラル認証:イスラム教の戒律に従って製造された食品に与えられる認証。とくにマレーシアの認証はマレーシア政府機関が発行しており、国際的に信用度が高い。

(上)ハラル認証マーク
(左)マレーシア新設工場で製造されている商品

Case 2 アメリカの飲料工場で安全・品質規格の認証を取得

アメリカでは、酒類事業だけでなく、2012年から飲料事業に参入しました。チルド飲料商品を製造するシルバー スプリングス シトラスは、食品安全と品質の2つを管理する「SQF※」で最上位の「レベル3」の認証を取得しました。

※ SQF(Safe Quality Food):米国小売協会を中心に導入した包括的な食品安全・品質管理システム。2015年2月にグループに加わった果汁飲料メーカーのカントリーピュアフーズも全4工場で取得済。

シルバー スプリングス シトラス品質担当者

Topics グループ2社が「農芸化学技術賞」をダブル受賞

サッポロビールとポッカサッポロは、公益社団法人日本農芸化学会より、2015年度農芸化学技術賞を同時受賞しました。同賞は「農芸化学分野において注目すべき技術的業績をあげた正会員に授与」される権威ある賞です。同一企業グループ内での同時受賞は、同賞初の快挙となりました。

業績論文表題

「ビール泡品質向上への一貫した取組み」(サッポロビール)

「交流高電界殺菌法を利用した果汁製品の製造」(ポッカサッポロ)

殺菌技術を導入した新設の名古屋工場第三工場

取引におけるCSR

サッポログループは、「グループ調達基本方針」に則りお取引先と公平で公正な取引を行い、パートナーシップを構築していきます。また、環境保全やCSRの取り組みにおいても、お取引先のご協力を得ながら積極的に推進していきます。

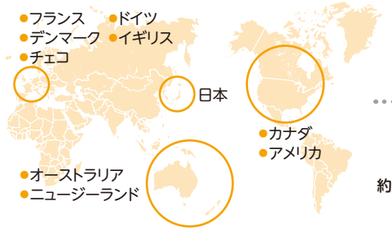
Action 1 お取引先とのより良い関係づくり

サッポログループは、お客様の求める高品質な商品・サービスを提供するため、お取引先との信頼関係のもとに、より安全で安心な原料、資材、物品、サービスなどを、安定して調達できる関係づくりをめざしています。

Case 1 独自の原料調達の仕組み「協働契約栽培」

サッポロビールは、世界の大手ビールメーカーで唯一、ビールづくりに欠かせない大麦とホップの育種に取り組むなど、創業以来「ビールづくりは原料から」に徹底的にこだわっています。その一つが「協働契約栽培」で、当社の原料の専門家である「フィールドマン」が、世界中の生産者と積極的にコミュニケーションを図り、品質の良い原料をつくっていく独自の原料調達の仕組みです。2006年にビール、発泡酒などに使用するすべての麦芽とホップの協働契約栽培100%を実現しました。

原料産地と協働契約栽培の生産者総数

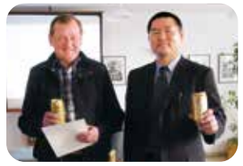


契約国数 **10**カ国

生産者総数 約**2,400**軒

Case 2 世界で優秀な加工メーカー・生産者を表彰

サッポロビールは、原料の「品質評価」にもとづき、毎年優秀な麦芽メーカーとホップ生産者を表彰しています。



2014年はドイツで4名、チェコで3名の優秀なホップ生産者を表彰

Case 3 ワインづくりでも協働契約栽培

サッポロワインは、国産ぶどうを100%使用したプレミアムワイン「グランポレール」の原料調達に、「協働契約栽培」を一部導入しています。豊かな自然に育まれた4つの産地(北海道、長野、山梨、岡山)では、自社ぶどう園や、生産者との協働契約栽培など、ともに良質な原料づくりに取り組んでいます。

北海道余市の生産者 弘津さん親子

Case 4 より良い関係の継続をめざして

ポッカサッポロでは、お取引先との相互理解と協働促進のために「お取引先満足度調査※」を2014年から開始しました。お取引先の意見を自らの業務に反映させることで、さらに良い関係づくりにつなげていきます。

※ お取引先満足度調査:主要なお取引先から、当社の調達活動を評価いただく取り組み。サッポロビールでも実施している。

Voice

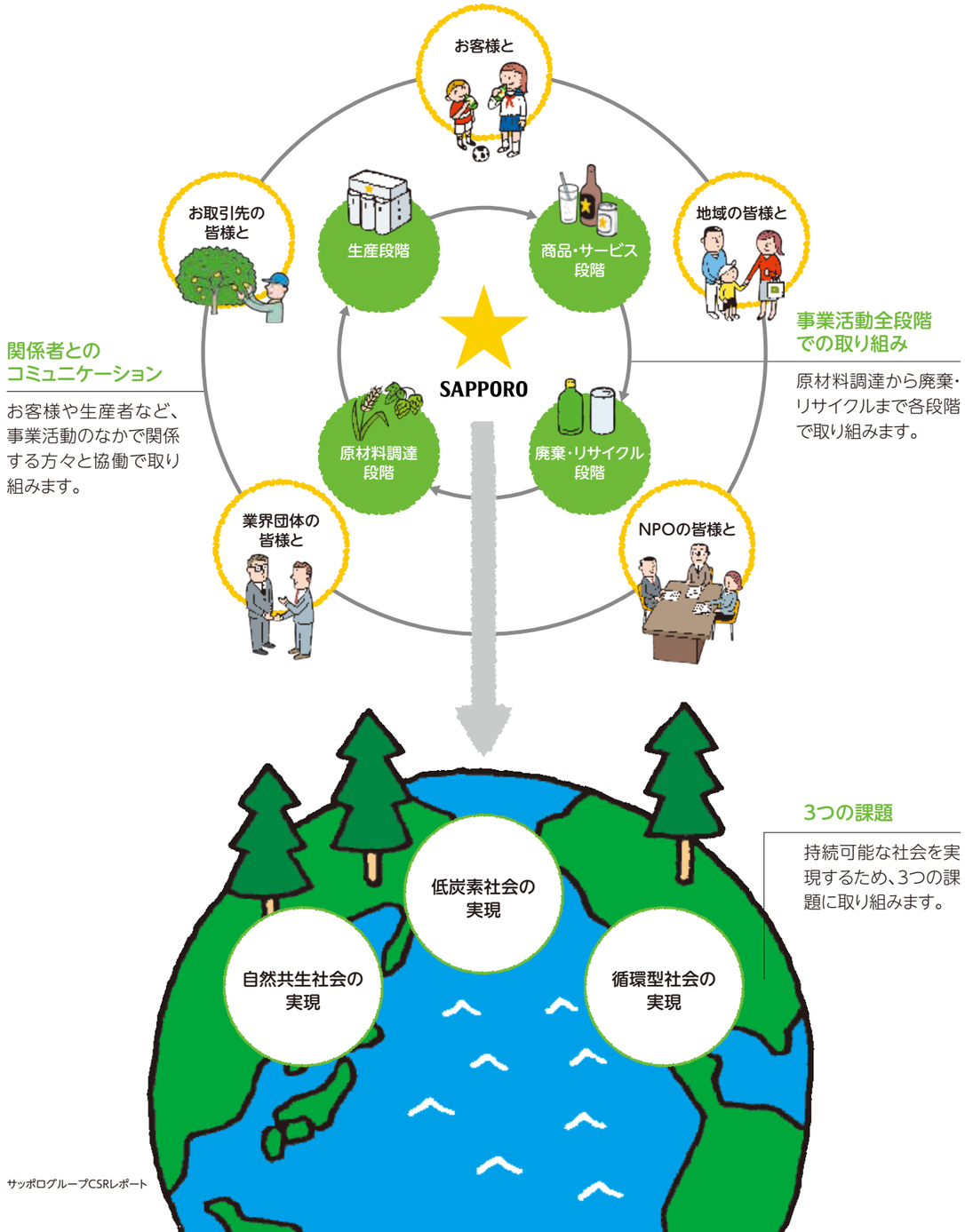
ポッカサッポロは、従来より原材料の良さを活かしてレモンやスープなどの商品を開発してきました。そのためには、良質な原材料を安定的に調達することが不可欠であり、お取引先とお互いのニーズを理解できる関係づくりが大切です。

ポッカサッポロフード&ビバレッジ(株) 調達部長
吉田 朋子

地球環境の保全におけるCSR

すべての事業分野において提供する商品やサービスのすべての段階にわたり、持続可能な社会を実現するために、従業員一人ひとりが地球環境に配慮し、積極的に取り組んでいます。

サッポログループの環境基本理念 概念図



Action 1 自然共生社会の実現

事業特性を活かし、地域や業界団体、NPOなどの皆様と連携して、自然の恵みを育む生物とその生育環境を維持するための活動に取り組んでいます。

Case 1 工場での環境イベントの開催

ビール工場では、それぞれの地域で、場内のビオトープ園に生息する生物の勉強会や大麦の種まき体験会などの環境イベントを開催しました。

北海道工場：自然観察会

群馬工場：大麦の種まき体験会(岡山大学と共催)

Case 2 1人1回の参加をめざす美化活動

サッポログループでは、従業員1人あたり年1回参加することをめざして、国内31カ所の主要拠点を中心に、地域のイベントへの参加や周辺清掃などを通じて、美化活動に取り組んでいます。

神奈川県鵠沼海岸のクリーンアップイベントに1992年から23年間続けて参加しています。

Case 3 森林保全に貢献する「カートカン商品」

ポッカサッポロは、紙でつくられた飲料容器「カートカン」を1996年から採用しています。カートカンは、国産材を30%以上使用し、森林保全のために間引きされた間伐材や、製材の際に発生する端材や木くずを積極的に活用しています。カートカン商品の売り上げの一部は、国内の森林整備を行うボランティア団体やNPOなどの活動資金に寄付されています。

カートカン商品

地球環境の保全におけるCSR

Action 2 低炭素社会の実現

それぞれの事業の強みや、長い歴史のなかで培った技術力を活かして、国内外でCO_2の削減に取り組んでいます。

Case 1 森林保全キャンペーンが環境大臣賞を受賞

サッポロビールは、北海道、生活協同組合コープさっぽろと「北海道の森を元気にしよう!」共同キャンペーンを2年連続で実施しました。ビールやワインなどの対象商品をご購入いただくと一定量のCO_2をカーボン・オフセット※でき、北海道の森林保全の応援につながるものです。多くの自治体や流通企業との協働による環境啓発効果が評価され、「第4回カーボン・オフセット大賞」環境大臣賞を受賞しました。

※ カーボン・オフセット:自らが排出したCO_2を、他の場所で削減された量や、吸収された量を購入することで相殺する方法。

キャンペーン対象商品

(左から)サッポロビール:高島常務執行役員、北海道:高橋知事、コープさっぽろ:大見理事長

Case 2 快適で省エネルギーなオフィスビルを竣工

サッポロ不動産開発が2014年に満室稼働で営業開始したオフィスビル「恵比寿ファーストスクエア」は、自然採光、自然換気を積極的に取り入れた、環境性能に優れているエコシャフトを採用しました。

(左)恵比寿ファーストスクエア全景
(上)ドーム型の集光装置(エコシャフト)

Case 3 食品残渣(ざんさ)などを利用してバイオエネルギーを生成

ビールづくりで培った発酵技術を応用して、廃棄処分される食品残渣などから水素、メタン、エタノールなどのバイオエネルギーを生成する技術の開発や実用化に向けた取り組みを国内外で進めています。

サッポロビールと磐田化学工業が開発した高温発酵酵母による、タイ国初のキャッサバパルプを原料としたバイオエタノール製造プラントが2014年に竣工

Action 3 循環型社会の実現

原材料調達から、廃棄・リサイクルまでの全段階で3R「Reduce(減らす)」「Reuse(再利用)」「Recycle(リサイクル)」に取り組んでいます。

Case 1 工場の廃棄物100%再資源化

サッポロビール7工場、ポッカサッポロ3工場では、生産にともなう副産物・廃棄物の100%再資源化を達成しています。

サッポロビール静岡工場

ポッカサッポロ群馬工場

Case 2 おいしい玉ねぎ料理で資源循環

サッポロライオンでは、食べものの大切さを啓発する取り組みとして、福岡の2店舗で、「食品リサイクル・ループ※」で栽培された玉ねぎの料理を販売しました。

※ 食品リサイクル・ループ:一例として、飲食店の食品残渣で肥料をつくり、その肥料を使って栽培された農作物を再び飲食店が食材として購入する仕組み。

食品リサイクル・ループを使用した料理

Topics 生産者とともに取り組む“畑”での環境保全活動

サッポロビール独自の協働契約栽培は、“おいしさ”や“安全・安心”のみならず、地球環境保全にも配慮しています。

協働契約栽培を通じた環境への配慮

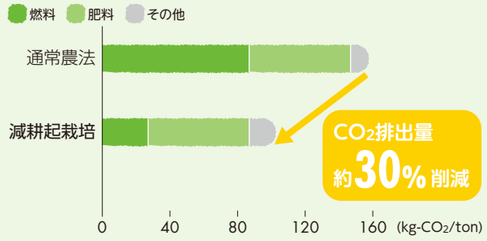
原料の専門家である「フィールドマン」はJGAP※の指導員の有資格者。農薬や肥料の成分や扱い方を熟知して、適切な使用を促すことで、畑周辺の環境保全にも貢献しています。

※ JGAP:農林水産省が導入を推奨する農業生産工程管理手法の一つ。

先端農法「不耕起栽培」「減耕起栽培」などの評価に向けて

「不耕起栽培」「減耕起栽培」とは、畑を耕さない、または従来よりも耕す回数を減らす農法のことで、地中の水分が保持しやすくなるため降雨量の少ない地域では有力な農法になっています。また、トラクターによる燃料使用が減るなど経済面と環境面でのメリットも注目されています。サッポロビールは、北海道で生産者の協力のもと、モデル圃場(ほじょう)を用いて「減耕起栽培」のメリットを評価しました。

大麦栽培における減耕起栽培と従来農法のCO_2排出量比較



社会との共生におけるCSR

138年の歴史のなかで、サッポログループは創業の地や生産・営業拠点、原料の生産地など国内外のさまざまな地域のご支援を受け、今に至っています。それぞれの地域社会の一員として、地域の発展支援や適正飲酒啓発活動、東北復興支援にも取り組んでいます。

Action 1 サッポログループ“創業の地”への貢献

サッポログループは、4つの創業の地において、長年にわたって地域とのつながりを大切にしてきました。2014年は、「サッポロ」ブランド生誕の地である札幌で「ビヤホールライオン狸小路店」が開業100周年、日本初のビヤホール誕生の地である銀座では「ビヤホールライオン銀座七丁目店」が創建80周年を迎えました。また、ヱビスブランドの生誕の地である恵比寿では「恵比寿ガーデンプレイス(YGP)」が開業20周年を迎え、ポッカ発祥の地、名古屋で1号店を開店し、現在は全国に約180店舗を展開する「カフェ・ド・クリエ」が開業20周年を迎えるなど、メモリアルな年となりました。これからも、各地域への貢献活動に取り組んでいきます。

札幌:
ビヤホールライオン
狸小路店

銀座:恵比寿ビヤホール

恵比寿:ヱビスビール醸造場

名古屋:
ポッカ発祥の地

Case 1 銀座での取り組み

銀座の街のさらなる活性化に貢献するために、銀座5丁目の再開発を行っています。また、銀座の地域活性化を目的として、ミツバチが自然界から運んで来た「ミツバチ酵母」を使って醸造した、世界で唯一のビール「銀座ブラウン」をネット限定で発売しました。

銀座5丁目再開発
外観デザイン

NPO法人 銀座ミツバチプロジェクトの協力のもとに開発したビール

Case 2 札幌での取り組み

札幌市との地域包括連携協定にもとづき、さまざまな取り組みを行っています。なかでも、札幌市とサッポログループが締結した「さっぽろ まちづくりパートナー協定」では、“ビールでまちづくり さっぽろ”プロジェクトに参画し、オータムビヤフェストの開催や各種イベントでPRなどを実施しています。

サッポロビール博物館

オータムビヤフェスト

Case 3 名古屋での取り組み

ポッカサッポロは、北名古屋市・名古屋芸術大学と、産学行政連携事業「ザ・ベストテンコンサート」を3年連続で共催しました。1980年代の懐かしいJ-POPを名古屋芸術大学の学生とOBが演奏するこのユニークなコンサートに、北名古屋市民の皆様を中心に約800人が来場されました。

ザ・ベストテンコンサート

Case 4 恵比寿での取り組み

恵比寿ガーデンプレイスでのイベント開催

開業20周年を迎えるYGPでは、設備やサービスのバリューアップや、地域でのさまざまな活動を行っています。恵比寿の街のイメージ向上の一環として、「恵比寿麦酒祭り」と「恵比寿文化祭」を毎年開催し、約30万人のお客様が来街されています。

恵比寿文化祭

「子ども虐待のない社会の実現」(オレンジリボン活動への取り組み)

渋谷区内の公園などに設置した45台の自動販売機の売り上げの一部約47万円を、「オレンジリボン活動」を進めるネットワーク組織「渋谷ピアネット」に寄付しました。

「オレンジリボン活動」の啓発ステッカーを貼付した自動販売機

高校生との未成年者飲酒防止活動

目黒区主催の「ティーンズフェスタ・イン・めぐろ2014」で、都立駒場高校など目黒区の4校の高校生と協働して“未成年者飲酒防止啓発”コーナーを設け、来場者への呼びかけを行いました。

“未成年者飲酒防止啓発”コーナー

地域の清掃活動

毎週、恵比寿駅周辺や近隣公園などの清掃活動を実施しています。2014年は延べ約1,000人の従業員が参加しました。

近隣小学校とも合同で清掃活動を実施

Topics これからのベトナムを支える人財育成支援

サッポロベトナムでは、これからのベトナムの経済発展を担う次世代の人財育成のため、優秀な大学生10名(1年生5名、2年生5名)を対象に毎年総額1億ドン(日本円約50万円)を奨学金として支援しています。

奨学金の授与式

Action 2 原料生産地など地域の特長に合わせた貢献

原料にこだわるサッポログループは、商品・サービスを通じて原料生産地など、地域の特長に合わせた取り組みを行っています。

Case 1 北海道で地産地消を推進

北海道庁との「連携と協力に関する協定」にもとづき、サッポロライオンの道内7店舗では14の総合振興局や各振興局と手を組み、各地の名産品を使ったメニューで「まるごと北海道! うまいもん味覚祭」を開催しています。

まるごと北海道! うまいもん味覚祭

Case 2 埼玉県産大麦を使用したビールが埼玉「ふるさと認証食品」に

サッポロビールが育種した埼玉県産大麦「彩の星」を使用し、首都圏などの地域で限定発売した「まるごと国産」が、埼玉県から「ふるさと認証食品」の認証を受け、行田市郷土博物館に展示されました。

行田市郷土博物館に展示された埼玉県産大麦「彩の星」と「まるごと国産」

Case 3 北海道産原料のすばらしさをPR

「黒ラベルThe北海道」は、大麦はオホーツク産と富良野産、ホップは富良野産、米には「ゆめぴりか」を使用しています。「クラシック富良野VINTAGE」は、富良野産生ホップを使用しています。

Case 4 「瀬戸内 広島レモン」をPR

「瀬戸内 広島レモン」の需要拡大やブランド価値向上に関することなど、県内地域活性化に向けたパートナーシップ協定を2013年から広島県と締結しています。その取り組みの一つとして、瀬戸内産レモン果汁を使用した商品を中・四国地区限定で発売しています。

Case 5 沖縄で長年愛される商品づくり

缶入り「さんぴん茶」を1993年に初めて発売して以来、缶入りさんぴん茶の元祖として、沖縄伝統の味を提供し続けています。また、アメリカ生まれ沖縄育ちのアイスクリーム「ブルーシール」は、紅イモやさとうきびなど沖縄ならではのフレーバーも揃え、県産素材のおいしさを県内外へ伝えています。商品だけではなく、青少年のスポーツ支援では「沖縄ポッカ杯」、次世代育成では「ブルーシールの絵本読み語り」など沖縄の地に根ざした活動を行っています。

Action 3 東北復興支援

サッポログループでは、震災直後から被災地の復興支援活動を行うため「東北未来プロジェクト」を仙台の営業拠点に設置し、「物産品の消費促進」「情報発信」「次世代育成」をテーマに、被災地のニーズに合った支援を行っています。

Case 1 「恵比寿麦酒祭り」で東北を支援

東北の将来を担う子どもたちの成長を支援するため、震災直後から毎年、「ハタチ基金」を通じて被災地の放課後学校コラボ・スクール(主催:認定NPO法人カタリバ)へ寄付しています。2014年は、「恵比寿麦酒祭り」で販売した生ビール約5万杯分の売り上げのすべてと、被災地の特産品を盛り合わせた“東北応援プレート”の売り上げの一部など約1,844万円を寄付しました。

また、特設ステージでは東北の10の自治体に物産・観光情報などをPRする場を提供したほか、仙台の観光の目玉の一つ「SENDAI光のページェント」のイルミネーションを恵比寿の地で再現させました。

「恵比寿麦酒祭り」に来街された、約20万人のお客様に向けて、東北の物産・観光をPR

Case 2 東北産ホップを100%使用したビールを発売

協働契約栽培の東北産ホップを100%使用した「黒ラベル東北ホップ100%」などを2014年も発売し、売り上げの一部を、被災地に花を咲かせる活動「スマイルとうほくプロジェクト」に寄付しました。

Case 3 株主優待制度を活用した東北支援

サッポログループは、株主優待制度を通じた株主の皆様からの寄付金の一部1,533,000円に同額の寄付金を加えた3,066,000円を、宮城県女川町の観光産業復興に取り組むプロジェクトに寄付しました。このプロジェクトでは、町内の公共施設・公園をはじめ、商業施設、宿泊施設、郵便局、銀行などの標識を、色鮮やかな“スペインタイル”で作成し、町に活気と誇りをよみがえらせることをめざしています。

スペインタイルで作成された標識

(左から)サッポロホールディングス:上條社長、
NPO法人みなとまちセラミカ工房:阿部代表、女川町:須田町長

人財と職場環境におけるCSR

すべての従業員を会社の財産である「人財」と位置づけ、従業員一人ひとりがもつ強みを最大限に発揮できるよう、ダイバーシティを推進するとともに、働きやすい職場環境の整備に取り組み、多様性を活かせる組織づくりを進めています。

Action 1 ダイバーシティの推進

サッポログループでは、「変革・挑戦」の組織風土を醸成するために、多様な背景をもつ従業員が業務を通じてお互いを認め合い、高め合うことを目的として「越境せよ」をスローガンに掲げて取り組んでいます。

Case 1 「グループの今」を世界の従業員が共有

サッポログループでは、世界で働く約13,000人の従業員の相互理解と情報共有、協働を促進し、グループとしての一体感を醸成するため、2014年にグローバル社内報「SAPPORO★トピックス」を創刊しました。四半期ごとに、日本語、英語、仏語、ベトナム語の4カ国語で発行し、世界各地の事業活動などを紹介しました。

Voice

グローバル社内報は、毎月入社する従業員に、グループの全体像を説明するツールとして効果的です。ベトナムの情報もどんどん発信しています。

サッポロベトナム 広報担当
Tran Quoc Tuan

Case 2 英語力向上への取り組み

サッポログループではグローバル人財育成の一環として、2011年から「全社員英語力アップ推進活動」を開始。TOEIC IPテスト(団体特別受験制度)を活用し、2014年は249名が受験しました。サッポロビールでは、1年以内に受験した前回のスコアとの伸び幅を競うという「TOEICのびのびコンテスト」を実施し、楽しく語学の学習ができる環境を整備しています。

コンテスト入賞者

Case 3 女性従業員のキャリア形成支援

サッポロビールでは、2014年、「営業と育児の両立のコツは?」をテーマに、「女性営業フォーラム」を開催。女性の活躍推進に取り組む先進企業3社から、育児期に営業職を経験した女性をパネラーにお招きし、意見交換を実施しました。このフォーラムは、社内外でのネットワークづくりにもつながっています。

女性営業フォーラム

Action 2 働きやすい職場環境の実現

2013年の「サッポログループ従業員意識調査」では、パワハラ・セクハラの課題にグループ全体で関心が高いことがわかりました。

サッポロライオンでは、一人ひとりが安心して仕事に取り組める職場環境づくりをめざし、各店舗でのミーティングやCSR社内啓発ツール「ライオン日和」の活用によって、コンプライアンス意識の向上に向けた取り組みを行っています。

4コマ漫画で簡潔にまとめた「ライオン日和」

健全な企業経営のためのCSR

サッポログループでは、国内外でコーポレートガバナンスを強化し健全で透明性の高い企業経営を推進しています。また全従業員のコンプライアンス意識の向上を図るため、教育・啓発を推進しています。

Action 1 経営体制の強化

サッポログループは、コーポレートガバナンスを強化するために、「内部統制システム構築ガイドライン」を定め、さまざまな取り組みを進めています。

内部統制システム構築ガイドラインの項目

1. コンプライアンスに関する体制
2. 重要な情報・記録の保存・管理に関する体制
3. リスクマネジメントに関する体制
4. コーポレートガバナンスに関する体制
5. 企業集団における内部統制体制
6. 監査役への報告に関する体制
7. 監査役の監査の実効性を確保するための体制

Case 1 取締役へのガバナンス研修

サッポログループでは、国内の連結子会社全42社の取締役を対象に、「コーポレートガバナンス研修」を実施しました。会社機関の概要、取締役の義務や責任などをテーマに、各社の課題に応じてコーポレートガバナンスに関する知識の再確認と意識の徹底を図りました。

ポッカサッポロでの研修の様子

Case 2 コンプライアンス勉強会の実施

サッポログループでは、グループ全体のコンプライアンス意識向上のために、独自のコンプライアンス事例集「サッポロケースブック」などを用いて定期的に勉強会を開催しています。

サッポロホールディングスの勉強会の様子

サッポロケースブック

Case 3 「企業行動憲章」を海外子会社に周知

グループのグローバル展開にともない、グループ全体で企業姿勢やめざす姿を正しく理解、共有するために「企業行動憲章」の周知・理解を、国内はもとより、海外の子会社にも推進しています。国や地域の法規制、商習慣、文化などに合わせて運営管理体制を強化するなど、グループ全体のコーポレートガバナンスの強化を図っています。

Voice

当社では、企業行動憲章を就業規則やイントラネットにも記載し、周知徹底を図るほか、採用時にもEmployee Hand Bookを配布し、説明しています。また、倫理ホットラインも開設するなど、会社全体でコンプライアンス意識の向上に努めています。

スリーマン 副社長
Dave Klaassen

SAPPORO

This is our **Communication on Progress** in implementing the principles of the **United Nations Global Compact** and supporting broader UN Goals.

We welcome feedback on its contents.

COMMUNICATION ON PROGRESS

本レポートに関するお問い合わせ先

サッポロホールディングス株式会社
グループCSR部
〒150-8522 東京都渋谷区恵比寿四丁目20番1号
TEL:03-5423-7211
URL　http://www.sapporoholdings.jp/
本レポートの情報はホームページでもご覧いただけます

FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C005531

ENERGY GREEN BIOMASS

Waterless Printing Naturally

VEGETABLE OIL INK

UD FONT 見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

Vegetable oil INK for waterless printing Non VOC INK Version 2

発行:2015年3月